

第9回(2018年度)助成研究成果表彰 表彰式・受賞記念講演会

助成研究成果表彰は、優れた成果をあげた助成研究者に与えられるもので、本年度も10名の応募があり、技術委員会による厳正な審査により各賞の候補者を選考し、6月1日開催の第33回通常理事会において3名の方の受賞が決定いたしました。

10月4日に鉄鋼会館において表彰式ならびに受賞記念講演会が行われました。当日は福島理事長の挨拶、岡田技術委員長の見解の後、理事長よりステンレス製の表彰状と副賞が受賞者に授与され、引き続き受賞者による受賞記念講演が行われました。

【各賞の受賞者】

1. 理事長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	坪内 直人	所属	北海道大学大学院工学研究院・准教授
助成研究期間	3年間 : 2013年11月～2016年10月		
研究テーマ	安価な低品位褐鉄鉱を用いるコークス炉ガス中の含窒素化合物の分解除去法の開発		
研究成果	氏は、安価な褐鉄鉱を触媒として利用することで、コークス炉ガス中の含窒素化合物を効率よく分解除去する手法を見出し、その反応機構を解明した。ガス処理の高効率化だけでなく、水素の最適利用化等の環境調和型製鉄プロセスや石炭ガス化複合発電等への応用にも道を開く大きな成果を評価した。		

2. 技術委員長賞

賞の性格	環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者に贈られる。		
氏名	夏井 俊悟	所属	北海道大学大学院工学研究院・助教
助成研究期間	2年間 : 2013年11月～2015年10月		
研究テーマ	高反応性原料の3次元ヘリカル構造による低炭素高炉の固気流れ安定化		
研究成果	氏は、高炉内の熱物質移動速度の検討を可能にした独自開発の高度な数値シミュレーションモデルを駆使し、鉱石層とコークス層を二重らせん構造とする低炭素高炉のための技術的提案を論理的に行った。将来の高炉操業の抜本的改善による二酸化炭素排出量の大幅削減も期待される成果を評価した。		

3. 鉄鋼技術賞

賞の性格	鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者に贈られる。		
氏名	桑原 泰隆	所属	大阪大学大学院工学研究科・助教
助成研究期間	2年間 : 2013年11月～2015年10月		
研究テーマ	高炉スラグを原料としたリン吸着材の合成と実排水からの効率的リン回収・再資源化技術の開発		
研究成果	氏は、環境負荷物質となっている排水中リンを吸着除去できる機能性無機材料を高炉スラグから合成する技術を開発した。優れた吸着能で高濃度のリンを含む化合物が得られるため、環境保全と同時にリン資源としての活用も期待される技術的成果を評価した。		

【 表彰式ならびに記念講演会の様子 】



表彰式記念撮影

(左から、福島理事長・夏井助教・坪内准教授・桑原助教・岡田技術委員長)



【理事長賞】 坪内直人 北海道大学准教授 【技術委員長賞】 夏井俊悟 北海道大学助教 【鉄鋼技術賞】 桑原泰隆 大阪大学助教



記念講演会 聴講風景